

## 2007 年 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第9戦 RACE REPORT

< 第9戦・鈴鹿サーキット > 11月17日・18日

< 観客動員数 > 17日 / 11,500人・18日 / 23,000人

< TV放映 > フジテレビ「モタスポS！」レース終了8日後月曜日 25:10~26:10

DoCoMo TEAM DANDELION RACING

ドライバー ( #40 ) ビヨン・ビルドハイム ( #41 ) ファビオ・カルボナーネ

チーム総監督 村岡 潔

チーフエンジニア ( #40 ) ロブ・アーノット ( #41 ) 吉田 則光

HARD

シャーシ LOLA B06 / 51 FN06

エンジン HONDA HF386E V8 3000cc

通信機器 NTT DoCoMo FOMA

MAIN SPONSOR

株式会社NTTドコモ NTT DoCoMo

株式会社NTTドコモ関西 NTT DoCoMo関西

株式会社NTTドコモ東海 NTT DoCoMo東海

株式会社NTTドコモグループ NTT DoCoMo Group

SPONSOR

田中オートサービス TANAKA

株式会社和光ケミカル WAKOS

京都機械工具株式会社 KTC

山田辰株式会社 THE MAN SPIRIT

パーカル株式会社 PERCUL

株式会社親和 Rich

有限会社マジックスクエア MAGIC SQUARE

レカロ株式会社 RECARO

エイティーエス株式会社 ATS

玉置商事株式会社 TAMAKI

モトローラ株式会社 MOTOROLA

株式会社フュートレック FUETREK

三菱電機株式会社 MITSUBISHI

株式会社ルネサステクノロジ RENESAS

株式会社ソフトウェアクレイドル CRADLE

シャープ株式会社 SHARP

株式会社EXR Japan EXR

アーム株式会社 ARM

株式会社エイチアイ Hi

## フォーミュラ・ニッポン 第9戦 <予選>

11月17日(土) ・天候/晴 ・出走台数/22台

**カルボーネ選手、前戦からの好感触セットアップをキープし予選自己最高位の6位。  
ビルドハイム選手はクリアタイムが取れなかったものの9位。ダブル表彰台を狙う。**

公式予選1回目(11:15~ 45分間 COURSE/ドライ)

気温16度、湿度36%、路面温度26度。定刻より少し遅れた11時15分、穏やかな小春日和となった鈴鹿サーキットでシリーズ最終戦の予選1回目が行われた。午後からのセッションの方がタイムアップが望めるとあって開始直後はどのマシンも待機状態。25分が経過したところでビルドハイム選手、カルボーネ選手ともにピットアウトしタイムアタックを開始した。両選手とも走り始めから非常によい感触でマシンをコントロール。まずビルドハイム選手が1分42秒528をマークし6番手、その後42秒208までタイムを縮めた。カルボーネ選手は午後からのタイムアタックに重点をおく戦略をとったため1回だけのアタックに集中。結果的にクリアラップは取れなかった状況ではあったが、1分42秒683を記録し12番手となった。

公式予選2回目(15:10~ 45分間 COURSE/ドライ)

約3時間のインターバルを置いて定刻通り予選2回目スタートした。ビルドハイム選手、カルボーネ選手ともコースオープン直後から積極的にアタック体制に突入。午前中のセットアップをさらに煮詰める方向でセッティングを進め、開始15分後にビルドハイム選手が4番手に踊り出た。カルボーネ選手も順調にタイムを縮め1分42秒台をキープ。

そして予選終盤、両選手とも最後のニュータイヤを装着しラストアタックに出た。しかしビルドハイム選手は最終セクターで遅いマシンに引っ掛かり1分41秒514。カルボーネ選手はデグナーカーブでのミスがあったものの1分41秒243のタイムで6番手に入り、最終戦2台揃ってのシングルグリッドを得た。

長丁場の決勝レースはチームの戦略面で多くの選択肢が考えられる。両選手ともにマシンのコンディションがとても良いと感じているだけに、明日の決勝は大いに期待できる。

第9戦・総合予選正式結果 40/9位(出走22台) ベストタイム/1分41秒514  
41/6位(出走22台) ベストタイム/1分41秒243

## フォーミュラ・ニッポン 第9戦 <決勝>

11月18日(日) ・天候/晴 ・出走台数/22台

**ビルドハイム選手、まさかのエンジンストール。最後尾からの猛追で8位フィニッシュ。  
カルボーネ選手、快調に4位走行も残り6周でマシントラブル。有終の美を飾れず。**

今シリーズの締めくくりとなる最終戦はIRLインディカー2004年チャンピオンのトニー・カナーン選手がスポット参戦し22台の出走となった。コースを51周回する300kmの長丁場で、給油とタイヤ4本交換が義務付けられた戦略面での選択肢が多いレースである。各車のスタート時のガソリン量が重要なポイントとなる。

決勝(11/18 14:10~ COURSE/ドライ 51周)

朝から好天に恵まれた鈴鹿サーキット。午後2時10分、時折通り雨に見舞われたものの通常のドライコンディションの下で決勝レースのシグナルがレッドからブラックアウト。各車一斉に1コーナーを目指し加速した。しかし9番手スタートのビルドハイム選手は痛恨のエンジンストールで最後尾へ転落。6番手スタートのカルボーネ選手もクインタレツリ選手にかわされ一つ順位を落としてしまった。ビルドハイム選手はミスを挽回すべく全力でプッシュ。猛追を開始し7周目には20位、10周目には18位、そして19周目には14位まで順位を挽回した。一方、オープニングラップで順位を一つ落としたカルボーネ選手。マシンの状態が非常に安定しており、7番手をキープしながら前走のロツテラー選手を追い上げた。10周目、5番手のクインタレツリ選手が右タイヤトラブルでスロウダウンし6番手にポジションアップした。

そしてレースが中盤に入り各マシンともピットイン作業を開始。26周目に11番手まで順位を回復していたビルドハイム選手が、27周目に2位走行のカルボーネ選手が相次いでピットイン。ともにタイヤ交換と給油作業を無難にこなし、ビルドハイム選手は17位、カルボーネ選手は8番手でコースに復帰した。

33周目、130Rで2位3位走行のトレルイエ選手とデュバル選手が接触し大クラッシュ。このアクシデントでビルドハイム選手、カルボーネ選手ともポジションが二つアップ。そして迎えた45周目、4番手を快調に走行していたカルボーネ選手が突然のスロウダウン。マシントラブルによりそのままリタイアを余儀なくされた。残り6周、カルボーネ選手にとってこのまま行けば自己ベストリザルトであっただけに非常に残念である。ビルドハイム選手は決してレースを諦めない姿勢で粘り強くレースを続け9位チェッカーとなった。

6位フィニッシュのカナーン選手が選手権得点対象外であったためビルドハイム選手は実質8位となり1ポイントを獲得。

最終戦・決勝正式結果 40/8位(22台中)                      ベストタイム/1分45秒933  
41/リタイア(45lap目)                      ベストタイム/1分45秒670

### ドライバーズコメント

ビルドハイム選手「予選から流れは非常に良く、マシンセッティングには確かな手応えがありました。しかし気負いすぎたのかスタートで失敗してしまい、金曜日から積み上げてきたものを一気に失ったような思いでした。しかし諦めることなくブッシュを続け、今回は何とかポイントを獲得することができました。

とても難しく厳しいシーズンでしたが、この経験がさらに私とチームを一段階上に成長させたと感じています。来期はこれらを集大成としてファンの皆さまにお見せできるよう努めます。シーズンを通して応援してくれた方々に感謝します。」

カルボーネ選手「予選中に試していたセッティングが非常に感触が良く、決勝も絶対の自信がありました。レース中のペースも非常に安定しており、とてもコントロールしやすいマシンとなっていましたが、レース終盤にマシントラブルが発生し結果を残すことができませんでした。目標の表彰台圏内にいただけに非常に悔しいですが、今はこの経験を来シーズンにつなげたい思いで一杯です。今シーズン、応援して下さった方々にお礼を申し上げます。」

### 吉田則光監督コメント

「今回、エンジニアリングスタッフの配置に少し変更を施しました。その結果が功を奏したのか、ビルドハイム選手、カルボーネ選手とも予選から非常に良い流れでレースに挑むことができました。マシンのバランスが今までにないほどまとまっており、ドライバーのコメントも非常に良いものでした。しかし、この様な絶好の流れを掴みながらも結果を残せない所にチームのひ弱さを感じる部分があります。来シーズンはさらにチームを強化して納得のいくシーズンで終われるように努めます。

また今年シーズンはワークス系のチームが大勢をしめ数少ないプライベートチームとしては厳しい状況の下での戦いとなりましたが、DoCoMo TEAM DANDELION RACINGはチームランキング6位を獲得することができました。来期もさらに上のレベルを目指し充実したチーム作りに専念したいと思います。一年間を通してサポートして下さった全ての方々に感謝いたします。」

**2007年、シリーズ全9戦を通して**

**DoCoMo TEAM DANDELION RACINGへの**

**熱いご声援、どうもありがとうございました。**

**DoCoMo TEAM DANDELION RACING**

**代表 村岡 潔**